

消防年報 2026

令和 8 年版



埼玉西部消防局

表紙の写真

「女性職員が埼玉県消防学校救助科の全課程を修了しました。県内初！」（上）

狭山消防署特別救助隊員として従事する内野隊員（写真左から二番目）が、埼玉県消防学校「第 39 期救助科」に入校し、女性職員として県内で初めて全課程を修了しました。

埼玉西部消防組合では、今後も女性職員の職域拡大に取り組むとともに、すべての職員が活躍できる職場づくりの推進に取り組んでまいります。

※ 埼玉県消防学校（鴻巣市）

消防組織法に基づく「教育訓練機関」という位置づけで、埼玉県内の消防職員や消防団員などを対象に、消防に関する専門的な教育訓練を行う埼玉県の施設となります。

「山岳救助対応車（令和 7 年度車両更新整備事業）」（左下）

この車両は、山間部への出場、傾斜地等の悪路走行を可能（四輪駆動方式）とし、車両上部にはルーフラックを装備するなど、山岳救助資機材を多数積載できる車両となっています。車両後部には、要救助者を保護しながら搬送するための、バスケット担架やチェーンソー等を積載し、迅速な山岳救助活動に対応する車両で、令和 7 年 12 月 23 日から飯能日高消防署に配置し、運用を開始しました。

「日勤救急隊（入間消防署日勤救急隊）」（右下）

所沢中央消防署日勤救急隊（令和 6 年 4 月 1 日から運用）に続き、令和 8 年 4 月 1 日から 2 隊目となる入間消防署日勤救急隊の運用を開始しました。日勤救急隊については、救急件数が多い日中の時間帯の救急需要対策として、また、救急隊員の労働時間の平準化による、適正な労務管理として、構成市内の救急需要のバランスを鑑み、所沢中央消防署及び入間消防署に配置しています。

裏表紙の写真

「埼玉西部消防局エンブレム」

中央の消防章は、雪の結晶の拡大図を基礎とし、これに日章を中心として水管、管そう、筒先から放出する水柱を配置したものです。また、消防章を囲む 5 本の炎は、組合発足時の構成 5 市（所沢市、飯能市、狭山市、入間市及び日高市）による消防の任務に対する情熱、熱意、調和、団結を表しています。